

所 報

◆「経済協力センター」の竣工

かねて建設中であった「経済協力センター」がこのほど竣工した。「センター」は6階建(約2600坪)で、その外容・構造に近代性を誇るとともに1、2階全面を海外はもちろん国内の調査研究関係来訪者のための談話、意見交換の場としている。3階以上は一般事務室となっているが、それぞれ調査研究機関のセンターとしての設備を完備している。この「センター」には、研究所のほか、海外技術協力事業団も入室し、アジア諸国を対象とする経済協力センターとしての機能を果たすことになっている。「センター」内の配室は、次のとおり。

- 1階
  - 2階 ロビー、食堂
  - 3階 研究所役員室、総務部、管理部、動向分析調査室
  - 4階 研究所図書資料部(書庫を含む)、長期成長調査室、統計調査室
  - 5階 研究所調査業務部、調査研究部  
海外技術協力事業団の一部
  - 6階 階海外技術協力事業団
- 屋上

◆研究所の移転

「経済協力センター」の完成に伴い、研究所は去る3月2・3日の両日にわたり、大手町、木挽館、秀和ビルから移転した。「センター」における業務は、3月4日から平常どおり開始した。なお、移転後の研究所の住所および電話番号は次のとおり。

住所 東京都新宿区市ヶ谷本村町42番地  
電話 東京(362)4231(代表)

◆おもな人事異動

おもな人事異動が、次のとおり発令された。

調査研究部第1調査室長 笹本 武治  
調査研究部長事務取扱東畑精一病氣療養中調査研究部長事務代理を命ずる(2月26日付け)

総務部経理課長 坂田 実  
管理部管理課長に配置換えする

総務部経理課主任 田中生 男  
総務部経理課長心得を命ずる(以上3月1日付け)

統計調査室長 大泉悦郎  
中近東の統計事情調査のため、アラブ連合へ出張を命ず

る

長期成長調査室長 吉田 稔  
統計調査室長大泉悦郎海外出張中統計調査室長事務代理を命ずる(以上3月10日付け)

常任専門委員 山本 素明  
動向分析室勤務を命ずる(3月11日付け)

調査業務部編集第1課主任 豊田 俊雄  
調査業務部編集第1課長心得を命ずる(3月18日付け)

◆常任専門委員の帰任

三菱商事(株)から出向していた長期成長調査室常任専門委員三沢 亨は、2月25日帰任した。

◆海外派遣員の出発、帰国

1. 出発 昭和37年海外派遣員星昭、田中忠治の2名は下記の通り出発した。

氏名	研究課題	派遣地	出発日	派遣期間
星 昭	ローデシア・ニアサランド連邦の経済発展	ソールズベリー	3月11日	2年
田中忠治	タイの産業構造	バンコック	3月23日	2年

2. 帰国 昭和35年海外派遣員のうち下記4名は2年間の任務を終了し近く帰国の予定である。

氏名	研究課題	派遣地	帰国日
松松清二郎	中近東の石油産業と経済発展	バグダッド	4月6日
有村 彰男	中近東諸国の経済開発と資本形成	カイロ	4月6日
杉谷 滋	インドの経済構造と経済開発	プーナ	4月5日
小島麗逸	中国の国民所得構造	香港	4月10日

◆出版案内(2月16日～3月15日発行のもの)・

橋弘作編『東南アジアの機械市場』(調査研究報告双書第35集)、松尾進編『東南アジアの海運』(同双書36)、恒松制治編『フィリピンの経済開発と国際収支』(同双書37)、原覺天著『アジア経済の構造と発展』(アジア経済研究シリーズ第42集)、片山謙二著『アジア貿易の地位と特質』(同シリーズ43)、古庄源治編『低開発国の開発と技術協力』(同シリーズ44)、大泉悦郎編『東南アジアの統計処理の方法に関する研究』(研究参考資料第37集)、三輪悌三著『イギリス植民地銀行の東南アジアに

おける地位』(同資料44)。

◆「アジア経済の長期展望計画」作業進捗状況

〔総体予測委員会〕

1. 委員会の開催

- (1) 世界経済小委員会(3月7日)  
世界各地域のG. N. P. の成長予測について、各専門委員より試算の結果が報告された。
- (2) 第17回委員会(3月9日)  
世界経済小委員会より域外諸地域についてのG. N. P. の成長予測結果が報告された。また成長予測モデルの試用結果について報告がなされた。

2. 事務局の作業状況

- (1) 成長予測モデルの再構成。
- (2) 貿易マトリックス作成の準備作業、国別貿易依存度、輸出入結合度の算出作業。

3. 今後の予定

- (1) 4月中旬までに国別に成長予測モデルの確定および諸係数の算出を行ない、4月中旬に第1次試算を準備する。
- (2) 世界経済の成長予測は一応完了したので、貿易予測作業を行なう。

〔工業委員会〕

1. 委員会の開催

- (1) 第7回委員会(3月12日)  
田中委員代理(日本綿糸布輸出組合調査室)よりI. C. A. C. (国際綿花諮問委員会)の繊維消費長期展望作業の方法について報告がなされた。I. C. A. C. による予測作業の基礎となったFAOの“Per Caput Fiber Consumption Levels”の生産統計による綿糸・布の生産量概念が原綿消費量(mill consumption)をもって生産とみなしている点、さらに事務局作成繊維バランス表(工業委員会資料No. 21)における貿易統計の概念とFAOによる生産量概念の違いをどう調整するかについて検討がなされた。

2. 事務局の作業状況

- (1) 予測参考資料 No. 18(肥料需要予測方法)、No. 19(肥料将来需給)をそれぞれ作成、印刷。

3. 今後の予定

- (1) 各商品別所得弾性値の計算。
- (2) セメント、繊維の各バランス表における生産と国内需給の実績のグラフ化。

〔農業委員会〕

1. 委員会の開催

- (1) 第14回農業委員会(3月5日)  
国別、対象品目別に作成した面積・収量・生産高グラフに基づき1950年代の実績趨勢の計算方法を検討し、これを完了。

(2) 農業委員会(室内)小委員会(3月18日)

第14回委員会までに決定した実績趨勢の計算方法のうち、双曲線と拋物線の趨勢函数式の分を再検討。

(3) ヒアリング(3月15日)

水野忠夫氏(三井物産砂糖部次長)を講師として、「東南アジアにおける砂糖事情」について行なった。

2. 事務局の作業状況

国別開発計画のデータを収録し、国別、対象品目別計画趨勢の算出方法を検討中。

3. 今後の作業計画

各対象品目ごとに小委員会単位で需要供給予測の作業に取りかかる予定(3月下旬~4月)。

- (1) 生産実績趨勢を検討して決定した単純線型、対数線型、双曲線型、拋物線型趨勢函数式に基づき実績趨勢を1970年次に引き伸す。
- (2) 生産の計画趨勢を同様に算出する。
- (3) 利用しうる生産函数の選出。
- (4) 需要のGDPに対する弾性値の算出。
- (5) 輸出需要算出の検討。

4. ヒアリング予定(3月中)

- (1) 東南アジアにおける油脂原料の需給事情。
- (2) 予測のための生産函数アプローチにおける問題点。

〔資源委員会〕

1. 委員会の開催

(1) 小委員会(3月4日)

菅又貞夫委員(八幡製鉄購買部資源調査室長)および植地済委員(同室)を招き、鉄鉱石の生産と消費の予測方法上の諸問題について意見を交換し、予測作業のスケジュールをきめた。

2. 事務局の作業状況

- (1) 国連資料による『アジア地域の主要鉱産品生産統計1937~60年』作製。
- (2) *Statistical Summary of Mineral Industry* 資料による『アジア地域の主要鉱産品の生産、輸出入統計1950~60年』作製。

3. 会後の作業計画

- (1) 予測対象商品グループの小委員会により具体的な予測方法を検討し、作業を進める。
- (2) 予測対象品目の1950年代の需給バランス表を作成し、同時に生産と消費の趨勢を推計する。
- (3) 各国のエネルギー資源開発計画を検討し、対象品目の計画目標趨勢値を推計する。
- (4) 函数式および最終用途別予測方法により対象品目の生産と内需輸出入差額を推計。
- (5) 貿易マトリックスにより主要対象品目の世界貿易量を推計、(4)でえられた域内諸国の貿易量をチェックする。

# —アジア経済研究所出版物案内(一部)—

(発売所=東京大学出版会)

## ◇調査研究報告双書 A5判

第1集	インドの労働事情……………(ILO東京支局調査課長 高橋 武編)……………431ページ…(定価 600円)*	
第2集	インドネシアの糖業事情……………(名古屋精糖調査課長 向井 進編)……………310ページ…(定価 450円)*	
第3集	インドネシア貿易流通機構……………(科学技術庁資源局 坂田善三郎編)……………390ページ…(定価 550円)*	
第4集	インド開発と資金問題……………(エカフェ協会調査部長 栗本 弘編)……………390ページ…(定価 550円)*	
第5集	インドの経営代理制度……………(神戸外国語大学教授 金田近二編)……………360ページ…(定価 550円)*	
第6集	アジア諸国資料調査……………(アジア経済研究所 岸 幸一編)……………340ページ…(定価 500円)*	
第7集	中国経済発展の統計的研究(I)(一橋大学助教授 石川 滋編)……………300ページ…(定価 900円)	
第8集	マラヤの華僑と印僑……………(明治大学教授 松尾 弘編)……………356ページ…(定価 800円)	
第9集	アジア第1次商品の基本問題……………(一橋大学教授 小島 清編)……………330ページ…(定価 850円)	
第10集	フィリピンの金融と資本形成……………(一橋大学教授 馬場啓之助編)……………290ページ…(定価 700円)	
第11集	パキスタンの労働事情……………(日本女子大学教授 松尾 均編)……………641ページ…(定価1600円)	
第12集	アラブ諸国の社会経済機構……………(慶応義塾大学教授 前嶋信次編)……………303ページ…(定価 750円)	
第13集	インドネシアの政治社会構造……………(一橋大学教授 板垣与一編)……………285ページ…(定価 750円)	
第14集	ビルマの経済開発……………(慶応義塾大学教授 山本 登編)……………480ページ…(定価1400円)	
第15集	中国人民公社の組織と機能……………(昭和同人会 土井 章編)……………320ページ…(定価 800円)	
第16集	インド工業の技術水準……………(化学経済研究所 柴村羊五編)……………360ページ…(定価 900円)	
第17集	インドの金融制度……………(東京銀行調査部長 広田弘雄編)……………520ページ…(定価1500円)	
第18集	インドの機械工業と貿易構造……………(日機連専務理事 橋 弘作編)……………600ページ…(定価1500円)	
第19集	インドの小規模工業……………(国民経済研究協会理事 井上照丸編)……………300ページ…(定価 750円)	
第20集	中国経済発展の統計的研究(II)(一橋大学助教授 石川 滋編)……………330ページ…(定価 900円)	
第21集	アジアの統計(I)……………(行政管理庁 北川 豊編)……………500ページ…(定価1300円)	
第22集	アジアの統計(II)……………(経済企画庁統計課長 倉持 博編)……………500ページ…(定価1300円)	
第23集	アジアの土地改革(I)……………(食糧庁総務課長 大和田啓気編)……………370ページ…(定価 850円)	
第24集	アフリカのナショナリズムの発展(I)(共同通信社整理部次長 穴戸 寛編)……………330ページ…(定価 900円)	
第25集	ビルマの金融事情……………(日本銀行調査局調査役 黒崎英雄編)……………380ページ…(定価1000円)	
第26集	タイの労働事情……………(法政大学教授 舟橋尚道編)……………310ページ…(定価 800円)	
第27集	ビルマの労働事情……………(ILO東京支局調査課長 高橋 武編)……………280ページ…(定価 800円)	
第28集	東南アジアの機械市場(I)……………(日機連専務理事 橋 弘作編)……………440ページ…(定価1200円)	
第29集	マラヤ・シンガポールの経済開発(明治大学教授 松尾 弘編)……………360ページ…(定価 850円)	
第30集	先進諸国の対アジア経済協力……………(日本生産性本部主任研究員 高木健次郎編)……………330ページ…(定価 800円)	
第31集	アジア諸国の租税制度(インド, セイロン編)	
	(大蔵省主税局総務課長 吉国二郎編)……………510ページ	} (定価3500円)
第32集	" (タイ, 香港編)	
	( " " )……………220ページ	
第33集	" (オーストラリア, ニュージーランド編)	
	( " " )……………390ページ	
第34集	中国経済発展の統計的研究(III)(一橋大学助教授 石川 滋編)……………310ページ…(定価 900円)	
第35集	東南アジアの機械市場(II)……………(日機連専務理事 橋 弘作編)……………410ページ…(定価1200円)	
第36集	東南アジアの海運……………(運輸省船舶局監理課 松尾 進編)……………380ページ…(定価1200円)	
第37集	フィリピンの経済開発と国際収支(学集院大学助教授 恒松治治編)……………250ページ…(定価 720円)	
第38集	パキスタンの金融事情……………(日本銀行調査局調査役 黒崎英雄編)……………(近 刊)	
第39集	アジアの産業構造と貿易……………(通産省大臣官房調査課長 有馬駿二編)……………(近 刊)	

- 第40集 インドネシアの経済社会構造…(一橋大学教授 板垣与一編)……………(近 刊)  
 第41集 アフリカのナショナリズムの発展(Ⅱ)(共同通信社整理部次長 宍戸 寛編)…310ページ…(定価 900円)  
 第42集 マラヤ・インドネシアの労働事情(法政大学教授 舟橋尚道編)……………(近 刊)

◇アジア経済研究シリーズ A5判

- 第1集 アジアの人口構造……………(中央大学教授 南亮三郎編)……………300ページ…(定価 600円)  
 第2集 アジア諸国の需要構造……………(神戸大学教授 藤井茂編)……………220ページ…(定価 450円)  
 第3集 日印綿業交渉史……………(京都大学教授 松井清編)……………300ページ…(定価 600円)  
 第4集 低開発国開発理論の系譜……………(一橋大学助教授 坂本二郎著)……………234ページ…(定価 400円)  
 第5集 インドの鉄鋼業……………(日本鉄鋼連盟調査局長 川崎 勉編)……………270ページ…(定価 540円)  
 第6集 中国経済建設と華僑……………(外務省嘱託 岡田芳政著)……………110ページ…(定価 200円)  
 第7集 低開発国工業化の技術的条件…(東京大学教授 安芸皎一編)……………211ページ…(定価 450円)  
 第8集 東南アジアのエネルギー構造…(経済企画庁参事官 林雄二郎編)……………164ページ…(定価 320円)  
 第9集 西ドイツの東南アジア経済政策(学習院大学助教授 島野卓爾著)……………186ページ…(定価 370円)  
 第10集 アジア特産物の国際需給……………(東京大学東洋文化研究所助教授 橋本秀一著) 162ページ…(定価 340円)  
 第11集 中国共産党の農業集団化政策(Ⅰ)(拓殖大学講師 佐藤慎一郎著)……………384ページ…(定価 800円)  
 第12集 欧米の東南アジア研究……………(一橋大学教授 板垣与一著)……………125ページ…(定価 250円)  
 第13集 東南アジアの貿易構造……………(日本貿易会調査課長 功力喜久男編)……………577ページ…(定価1200円)  
 第14集 アジアの稲作……………(東京大学教授 戸辺義次編)……………250ページ…(定価 500円)  
 第15集 東南アジアの資源構造……………(資源調査会委員 平 貞蔵編)……………260ページ…(定価 520円)  
 第16集 インドの経済開発と工業立地…(関東学院大学教授 白山源三郎著)……………180ページ…(定価 350円)  
 第17集 中国の貿易組織……………(神戸大学教授 宮下忠雄著)……………200ページ…(定価 400円)  
 第18集 ネパールの農業と土地制度…(アジア経済研究所 飯島 茂著)……………130ページ…(定価 260円)  
 第19集 東南アジア稲作技術の系譜……………(東京外国語大学講師 市川健二郎著)……………114ページ…(定価 200円)  
 第20集 アジアの人口増加と経済発展…(中央大学教授 南亮三郎編)……………280ページ…(定価 560円)  
 第21集 中東近代化とイスラム教……………(中東調査会常務理事 小林 元著)……………230ページ…(定価 450円)  
 第22集 ブラジルの経済構造……………(神戸大学経済経営研究所教授 柴田銀次郎編) 320ページ…(定価 640円)  
 第23集 ニグロ・アフリカの伝統的社会構造(Ⅰ)(東京大学助教授 泉 靖一編)……………355ページ…(定価 950円)  
 第24集 アジアの景気変動と経済成長…(大阪大学教授 渡辺太郎編)……………140ページ…(定価 280円)  
 第25集 西欧カルテルのアジアに及ぼす影響(慶応義塾大学教授 白石 孝編)……………280ページ…(定価 680円)  
 第26集 アジアの経済成長と貿易構造…(神戸大学教授 入江猪太郎著)……………190ページ…(定価 380円)  
 第27集 アジアの第1次商品貿易……………(一橋大学教授 小島 清編)……………260ページ…(定価 520円)  
 第28集 中国共産党の農業集団化政策(Ⅱ)(拓殖大学講師 佐藤慎一郎著)……………350ページ…(定価 700円)  
 第29集 アジアの飼料産業……………(経済企画庁 溝口勇雄編)……………230ページ…(定価 450円)  
 第30集 東南アジアの肥料工業……………(協和商事株式会社 山川幸一郎編)……………240ページ…(定価 500円)  
 第31集 アジアの繊維産業……………(日本紡績協会調査部次長 有田円二編)……………330ページ…(定価 780円)  
 第32集 タイの米穀事情……………(在アメリカ日本大使館参事官 長谷川善彦著) 520ページ…(定価1500円)  
 第33集 ラテン・アメリカ経済研究事情(アジア経済研究所 桜井雅夫著)……………190ページ…(定価 350円)  
 第34集 中国の土地改革……………(大阪市立大学教授 天野元之助著)……………120ページ…(定価 280円)  
 第35集 セイロンの人口構造と経済構造(中央大学教授 南 亮三郎編)……………260ページ…(定価 650円)  
 第36集 インドの財閥……………(加藤長雄著)……………200ページ…(定価 380円)  
 第37集 東南アジア経済の将来構造……………(一橋大学教授 小島 清編)……………250ページ…(定価 750円)  
 第38集 南ベトナムの経済開発……………(三井物産株式会社 富崎万右衛門編)……………260ページ…(定価 780円)  
 第39集 東南アジア第1次商品の価格安定施策(日本銀行アジア調査課長 渡辺長雄編)……………180ページ…(定価 540円)  
 第40集 アジアのセメント工業……………(セメント協会専務理事 水田金一編)……………(近 刊)  
 第41集 農業生産合作社の組織構造……………(拓殖大学講師 佐藤慎一郎著)……………200ページ…(定価 600円)  
 第42集 アジア経済の構造と発展……………(アジア経済研究所 原 覺天著)……………410ページ…(定価1200円)  
 第43集 アジア貿易の地位と特質……………(関西学院大学教授 片山謙二著)……………180ページ…(定価 540円)  
 第44集 低開発国の開発と技術協力……………(八幡製鉄株式会社社審議役 古庄源治編)……………200ページ…(定価 600円)  
 第45集 海外における中国研究の状況…(一橋大学教授 村松祐次著)……………(近 刊)  
 第46集 日本貿易構造の長期的予測……………(国際基督教大学助教授 福地崇生著)……………(近 刊)

(\* 印のものは発売所=丸善株式会社)